北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

# ジャガイモ

校長通信　№２５４

令和５年　４月２８日

## 「　芋洗い③～入学式編～　」

校長　江　口　　満

【前号からの続き】芋洗いとは、大きな木桶に芋を一杯入れて、丸太ん棒でよいしょ、よいしょとかき回します。その力に押されて、芋は上から下へ、そして右に左にと移動して、大きな芋や小さな芋の姿が現れては消え、消えては現れます。上にある芋も、いつまでも上にいるとは限りません。また、下の芋も、いつまでも下積みでいるとは限りません。芋は、上がり下がりの繰り返しのうちに、お互いにぶつかり合い、洗われ磨かれていきます。そして、最後はぴかぴかの芋になるのです。

だから、「芋塾」では、スタッフのみんなで協力して、「芋を洗う桶」としての様々な活動を準備・演出していきました。食事や後片づけ、掃除などの日常生活。活動として、深夜、川での魚の手づかみ大会。最終日のキャンプファイヤーの企画。全て子ども自身に決めさせました。当然、最初から上手くいきません。しかし、スタッフは、ほとんど口出しをしません。我慢です。だから、夕飯がほとんど食べられない班が続出。でも我慢です。指導する基準は、ただ一つ。子ども達が、逃げずに本気で取り組んでいるかどうか。

【上】第一学年の先生方と学校全体をお世話してくださる先生方の紹介
【下】4月11日（火）本校第49回入学式の式典を終え、第一学年の先生方と中学校生活の第一歩を踏み出す新入生の皆さん。活躍を期待しています。

子ども達は、食事も食べられないから、だんだん本気になっていく。小学生が、中学生のやる気のないお兄ちゃんに本気で文句を言い始めます。ケンカもします。本気でぶつかり合います。夕食のために、本気で魚を捕まえました。班の出し物の練習で、本気で踊り、歌いました。

最終日、みんな涙を流して別れを惜しみました。私は、会場を去っていく子ども達の後ろ姿が、ピカピカの芋に見えたのです。私は、この芋洗いこそが、教育の原点だと感じました。

翌年の４月、北九州市の中学校に新採教員として着任した私は、担任として学級通信を書こうと決意しました。そのタイトルに、学級通信「芋」では、あまりにも可愛くないので、「ジャガイモ」としました。ジャガイモのキャラクターも、その時に生まれました。

そして現在、校長として「ジャガイモ」を綴っています。新入生の皆さんが、芋だと言っているわけではありませんが、この芋洗いは「学級」であり、「学年」「学校」ではないかと思うのです。いろいろな学習や活動の場面で、お互い真剣に、全力でぶつかり合って活動すれば、お互いに磨き合ってぴかぴかの人間になる。そして、さまざまな活動を通して人と人が共に生きること、友を生かし友から生かされる。このことを、私は「ジャガイモの精神」と呼んでいます。（裏面へ）

そのためにも新入生の皆さんは、まず、学級を大切にしてください。校長通信「ジャガイモ」という言葉に込めた、「芋洗い」の基本は、学級の仲間だからです。新入生の皆さんの活躍を、心から楽しみにしています。

最後になりますが、本校は創立４９年目を迎えます。過去の本校の「伝統」を受け継ぎ、創立半世紀集大成の「感動」を求めて、私たちはその第一歩を踏み出します。

**【下】4月21日(金)四年ぶりに開催できた授業参観。**
**3年4組「理科」、3年2組「国語科」の授業の様子**

## 「同じ熱量で有言実行」　３年４組　Ｔさん

私は三年生になって、楽しみよりも不安の方が勝っている。仲の良い友達とクラスが別れてしまったことと、進路についての不安がある。正直、まだこのクラスで一年間楽しく、笑顔で過ごせるか心配だ。一言も喋ったことがない人達ばかりなので、上手く馴染めるだろうか、とまだ三年生になってから日にちが経っていないため、そう心配している。だが、6月4日から二泊三日の修学旅行があるため、積極的に話しかけることが苦手だが、仲よくなるために自分から積極的に話しかけていきたい。

三年生では、生きてきて初めての「受験」がある。今のところ自分にはまだ将来の夢や将来就きたい職業がないため、どこの高校に行くかも決まっていない。4月中には決めて、その高校に入るための受験勉強を始めたいが、まだ決まりそうにないため焦っている。一、二年の頃は、目標としている毎日30分でいいから復習するということをせずに、親に言われるまでずるずると勉強をしなかった。三年になってもそれだと、高校入学が叶わなくなる。楽な方ばかり選んでいては進歩しない。自分に甘いと、結果的には良い方向には進まないと思う。なのでこの一年間は心を鬼にして、どんなにきつくてもこの一年間もない間は耐えて、目標達成したいと思う。口だけでなく行動に表して、普段勉強のことについて話している親にしっかりとその姿勢を見せて、一年後、悔しい思いをしないように、有言実行できるようにしたい。そして夏までは、水泳との両立をするために、どちらにも同じ熱量で取り組みたい。

中学校の三年間は、驚くほど短く感じられる。まだ気持ちは一年生の三学期くらいなのに、最上級生という立場だ。私の卒業までの目標は「悔いなく、笑顔で卒業する」にしたので、最後の一年が一番楽しかったと言えるように、何事にも全力で取り組みたい。

## 「自分で作ったお米が美味しいと思えるような生活」　３年２組　Ｍさん

４月になった。三年生になった。しかし、僕はまだ三年生というものに慣れていない。その証拠に、二年生の下足に行ったり、二年生の階に行きそうになったり、「二年三組のM」という挨拶をしてしまったりする。一年間、二年生だったのに、急に「三年生」と言われても、あまり実感が湧いてこない。

しかし、僕の思いに神様が応えてくれるわけもなく、時間は流れていった。そして、入学式の日がきた。後輩が増えた。見慣れない風景に緊張しつつも、これからの学校生活を楽しみにしている一年生。彼らを見ていると、僕達の入学式のことがなつかしく、三年という歳月がとても短く感じた。

ここまでくると、三年生ということを自覚せざるを得なくなった。目標として、学習面では「学力向上」、生活面では「自立・友愛」をかかげて、中学校最後の一年を全力で楽しんでいきたい。しかし、新しいクラスにはまだなじめていない。二年生の時のクラスのインパクトが強すぎて、三年生になって起こる出来事へのリアクションが薄くなってしまっているせいもあるのかもしれない。

このような悩み事がいくつかあるので、簡単に目標を達成することはできなさそうだ。でも僕は、自分で汗をかきながら作ったお米の方が、普段のお米よりも美味しいことを知っているので、常に努力を欠かすことなく、毎日の生活を送っていきたい。

## 「学校を引っ張ていく立場になって」　３年２組　Ｎさん

今、自分が最終学年で、この学校を引っ張ていく立場になったと考えると、楽しみより不安や焦りの方が強く感じる。自分は体育委員長としてクラスや学年だけではなく、全校生徒をまとめる立場だから、この先も不安になることが多いと思う。体育祭はもちろんその他の学校行事でも自分がやるべきことがあり、楽しさ半分、不安半分という感じだ。さらに三年生は受験があり、自分の行きたい高校へ行くために成績が足りるのか、本当に受かるのかなどいろんな面で不安が残る。

自分は今年、不安だらけの年で、本当に大丈夫かと疑心暗鬼になっている。でも、中学三年生は人生一度きりだし、体育委員長は学校で一人しかいない存在だ。中学校生活最後の学年だからこそ、何事にも不安をなくすくらいの準備と前向きな気持ちを忘れず学校生活を送らなければならないと思う。そのためには、まず自分から日頃の行い、成績、友達との仲などを良くしないといけない。そして最後は悔いのないように卒業したい。大変なことばかりだけど、楽をするとどこかで悔いが残る。自分が楽しかったと思えるように、今年は今まで以上の努力と元気を発揮し頑張っていきたい。